

ナシヒメシンクイ情報第1号（ナシ、モモ）

令和4年7月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

県内モモほ場における芯折れ被害が多く発生しています。
今後の発生量が多くなる可能性があります。

1 発生状況

6月下旬に行ったモモほ場における巡回調査（県内18ほ場調査）において、ナシヒメシンクイによる被害新梢率（芯折れ）は3.22%（平年1.87%、前年1.44%）で、過去10年間と比較して最も高い状況です。

また、県内7か所（ナシ及びモモほ場）に設置したフェロモントラップの一部において、ナシヒメシンクイ成虫の誘殺数がやや多い状況です（図1）。

本種は、東海地方では年に4～5回発生するとされており、次世代以降の発生量も多くなることが予想されますので注意が必要です。

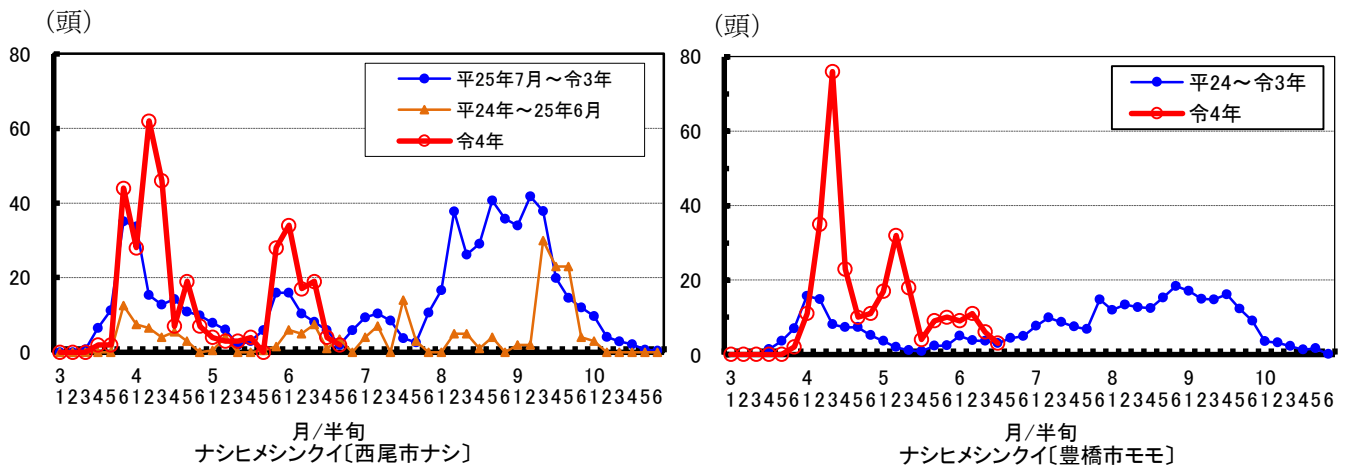


図1 フェロモントラップによるナシヒメシンクイ成虫の誘殺状況

2 ナシヒメシンクイについて

本種は、老齢幼虫が果樹の粗皮の割れ目等にまゆを作って越冬し、3月頃に蛹化が始まり、羽化した成虫はモモの新梢や葉裏に産卵します。ふ化した幼虫は新梢先端に移動し、そこから食入することで「芯折れ」症状を引き起こします（図2）。

その後、世代が進むにつれ、幼虫の寄生は果実へと及び、果実への食入による被害を引き起こします（図3）。また、7月頃からはナシ園にも集まり、ナシでは果実に食入し被害を引き起こします。



図2 モモ新梢の芯折れ被害



図3 果実（モモ）を食害する幼虫

3 防除対策

幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が低くなるので、食入前の防除が重要です。

世代が進むにつれて、各世代の成虫の発生時期が重なりあい、成虫の発生のとぎれがなくなっていくます。表を参考に定期的に薬剤防除しましょう。特に、ナシの無袋栽培では7月頃から収穫期まで、7～10日間隔で防除しましょう。

表 シンクイムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	使用回数	IRACコード
なし	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	ディアナWDG	収穫前日まで	2回以内	5
	フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	2回以内	28
	サムコルフロアブル10	収穫前日まで	3回以内	28
	テッパン液剤	収穫前日まで	2回以内	28
	もも	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤		収穫前日まで	3回以内	4A
ディアナWDG		収穫前日まで	2回以内	5
フェニックス顆粒水和剤		収穫前日まで	2回以内	28
サムコルフロアブル10		収穫前日まで	2回以内	28
テッパン液剤		収穫前日まで	2回以内	28

令和4年7月1日確認時点の農薬登録情報。IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細はhttps://www.jcpa.or.jp/assets/file/lab0/mechanism/2021/mechanism_irac02.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。